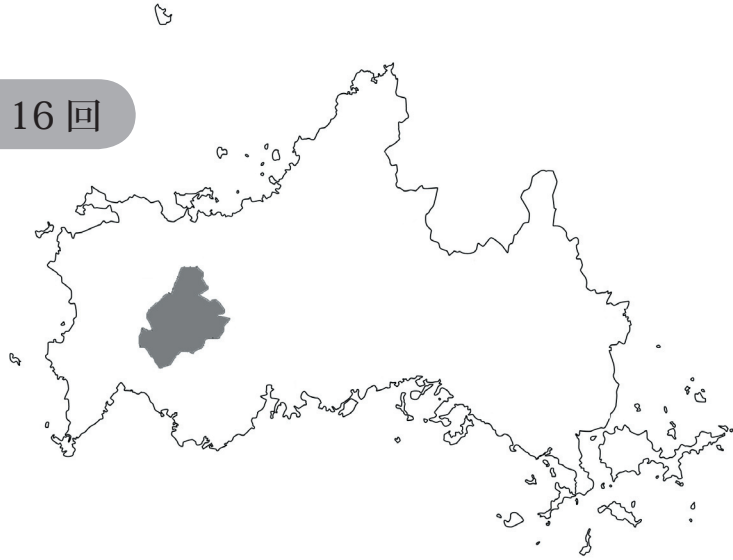


郡市医師会めぐり 第 16 回

美祢市医師会



まず、美祢市についての紹介をします。

平成 20 年 3 月 21 日、平成の大合併の折、旧美祢市と旧美祢郡の美東町と秋芳町の一市二町が合併し、現在の美祢市が誕生しました。美祢市は、山口県西部の日本海と周防灘とのほぼ中央に位置し、北は長門市、萩市、東は山口市、西は下関市、南は山陽小野田市、宇部市に接しています。人口が少ない割には比較的広い面積があります。市内には日本最大級のカルスト台地「秋吉台」と日本屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」などがあり、観光資源に恵まれています。美祢市では、美祢ジオパークの認定に向けた取組みをしています。ジオパークとは、地質遺産とともに、文化遺産や動植物の生態、地域特有の財産などを楽しむ場所のことです。ジオ（地球・大地）とパーク（公園）の造語で、日本語では「大地の公園」と訳します。また、美祢地域ならではのジオの恵み、地域特産品（秋芳梨・美東ごぼう・厚保くりなど）もあり、それらの豊かな自然環境を活用した農林業が基幹産業となっています。さらに、カルスト台地を形成し、セメントの原料である石灰岩が、市内の鉱山において大量に採掘されています。平成 19 年 4 月には、いわゆる初犯者の刑務所である社会復帰促進センターが開設されています。人口については、昭和の大合併時に 38,439 人であった旧美祢

市も、平成の大合併前には、17,919 人に減少し、平成の大合併を経て、平成 25 年 11 月末現在の美祢市の人口は 27,191 人です。そのうち 65 歳以上の占める割合は 35.5% と高齢者の占める割合が高くなっています。

つぎに、美祢市医師会について紹介します。

美祢市は旧美祢市と旧美祢郡が合併してできた事は前述しましたが、行政とは別に、旧美祢市は宇部・小野田保健医療圏、旧美祢郡は山口・防府保健医療圏と二次医療圏が異なる事もあり、美祢市には旧美祢市に所属する美祢市医師会と旧美祢郡に所在する美祢郡医師会があります。そのうち美祢市医師会は、旧美祢市（平成 25 年 11 月末現在人口 16,502 人）に所在する会員により構成されています。

美祢市医師会は、昭和 30 年 11 月 1 日に社団法人として設立されました。当時から会員数が少なかったためか医師会長宅に事務からすべてお願いしていた状況で、現在まで医師会誌等の発行もないため、医師会活動の記録等がほとんど残っていないのが現状です。平成 18 年に美祢市医師会事務局を開設し、平成 24 年 4 月 1 日には社団法人から一般社団法人へ移行し、名称を一般社団法人美祢市医師会へと変更し現在に至っています。

平成 25 年 12 月現在の会員数は、A 会員 9 名、

B 会員 4 名の計 13 名、所属医療機関は、公的病院である美祢市立病院と診療所 9 の計 10 施設で、非常に小規模の医師会です。こういった会員数の少ない医師会では、医師会の役を 1 人が何役も兼務することが多く、その役も 1 人だけではなかなか十分にこなせず義務的になってしまいがちです。

現在、美祢市医師会の医療の中核は美祢市立病院ですが、その市立病院も医師不足のあおりを受け、常勤医は 10 年前に比べ 7 人減り、約半減しています。多忙を極める中、整形外科や消化器内科の常勤医がいなくなり、われわれも紹介に苦慮している現状です。しかし、病診連携の一つとして、美祢市医師会と美祢市立病院との協議会は毎年開催しており、症例提示の勉強会もあり医師会員の出席率の高い会合の一つです。また、来年度から当医師会に美祢市立病院の勤務医会員を増やしていただける予定で、病診連携の一層の向上が期待されます。

一次救急は休日当番医として休日の昼間の対応ではありますが、診療所数が少ないため、平均 1～2 か月に 1 回は当番医をしている現状です。

広報活動については、先述のとおり医師会報の発行がなく、美祢市立病院広報の中に「美祢市医師会から」を平成 25 年から掲載させていただき

始めたばかりです。

病診連携、診々連携の観点からせめて年 1 回でも医師会報を発行したいと考えています。対外広報活動はマンパワーの不足のため、歯科医師会、薬剤師会を含めた三師会共同開催等を模索したいとも考えています。

特定健診については、美祢市の積極的な広報と医師会員の熱心な受診勧奨もあり、平成 20 年度から開始した国民健康保険の特定健診の受診率は、平成 24 年度は 35.5% と他の市に比べ上回った状況であり、美祢市医師会としても少しは安堵したところです。

さて、今後、2015 年（平成 27 年）には、いわゆる「団塊の世代」が高齢者となり、美祢市においてもさらなる高齢化の進展が見込まれています。高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けることができるためには、地域包括ケアの構築が不可欠です。高齢者のほとんどが病気を抱えながら介護も必要になるため、医師会活動の一環として、行政や医療機関だけでなく介護関係機関等と顔の見える関係作りが必要になります。こういった面では、美祢市医師会は少人数であるからこそ、密な関係づくりを築くことができるのではないかと期待しているところです。

〔美祢市医師会広報担当理事 藤村 寛〕

